



昭和27年1月11日  
第三種郵便物認可第761号  
平成30年11月25日発行  
(毎月25日発行)

# 福祉だより 信州

No.  
**761**  
2018 12月号

よっ!  
新風人



## CONTENTS

- |                      |   |
|----------------------|---|
| みんなで取り組む地域共生・信州      | 2 |
| 福祉保険サービス広告           | 5 |
| 県社協情報局               | 6 |
| おらほの縁パワー活動!          | 7 |
| よっ!新風人・今月の逸品・ざわめくアート | 8 |



# 今だからこそ 「草の根のボランティアズム」にこだわる

～ボランティア全国フォーラム軽井沢2018から～

## 1日目 オープニング 響け!“ボランティア文化”協奏曲



ボランティア全国フォーラム軽井沢2018は、11月3日(土)・4日(日)軽井沢大賀ホールと佐久平交流センターをメイン会場に開催されました。

全国から650名の参加者がシンポジウムや12の分科会に参加をして、研究協議と交流を深めました。

●このフォーラムは、毎年度、「広げれボランティアの輪」連絡会議と全国社会福祉協議会が、熱意ある地域を選んで共同開催しているものです。軽井沢・佐久地域のボランティアや地元社会福祉協議会の熱意により、1年ほど前に招致し、地元を中心として多様な関係者が協働する実行委員会により企画を進めてきたものです。

●1日目は、「支え合いの文化を全国に広げるボランティア活動」をテーマにシンポジウムで学び、軽井沢プリンスホテルを会場に盛大な交流会が開催されました。

●2日目は、佐久地域に分散して12の多彩なテーマによる研究協議を行った後、佐久平交流センターでのクロージングにて学びを分かち合い、未来に向けて、各地で取り組んでいきたいこと参加者全員で共有しました。

ボランティア活動を、「消耗品」ではなく「文化」として大切に引き継いでいきたい。

ボランティア活動は、かつては「慈善」や「立派な(奇特的な)人」の営みと見られがちだった時代がありました。現在、学生や社会人、シニアなど、ライフステージにあわせた生活の場面において、活動の選択肢の一つと

して社会に定着しつつあります。

一方で、自主性・自発性を大切にしてきたボランティア活動が、「授業」に組み込まれて強制されたり、「有償ボランティア」として安易に活用されるなどの課題もあります。

災害や五輪・パラリンピックなどボランティアがより身近なものになり、行政や学校、企業などから様々な期待もかけられている今だからこそ、参加者は「肩書や立場を超え、一市民として、自発的に地域の課題解決に取り組んできた活動の原点を語り合い、ボランティア活動を、文化として大切に次世代に引き継いでいく」という思いを共有しました。

## 「広げれボランティアの輪」 連絡会議提言を支援に

全国フォーラムの共催者である「広げれボランティアの輪」連絡会議は、全国社会福祉協議会、中央共同募金会、日本NPOセンター、大阪ボランティア協会など、ボランティア・市民活動を推進する全国規模の団体の連絡会議です。連絡会議では、



「広げれボランティアの輪」  
連絡会議 上野谷加代子会長



# 私のまちに持ち帰りたい フォーラムでの学び・気づきを共有

**「主」と「客」という垣根がだんだんと薄れていくような活動に全員が助け、助けられるが重要だと思います。**

**何かをしようとすることは原動力。形にしないともったいない。**

**持続可能な社会をつくるためには「第3者に入ってもらう第3者として入っていく」客観的な視点も必要**

**「優しさ」はつながっていきます。笑顔でやりたいこと楽しみましょう。**

**みんな地元を根をしっかりと活動してもらえ。又、自分の意見もしっかり持っておられる。多くの良い人間性をもったオマと学べた良かったです。**

**若い青年の頑張れ、ネットの利用、目の付け所が良い。行政や地域の方の協力大。**

**農業も年とともにできなくなる。でもみんなやれは居場所にもなり、楽しい、働くこともできる。女性の立場が見返され自分のスキルが活かせ、外から来た嫁の意識がなくなり生きがいになる。子どもたちにもいい所!と思ってもらえる。**

**このサロンは行かないと損と思う場所になっているのは続く秘訣。**

**ボランティア活動はカッコよく! オシャレに**

**無理をしない**

**ひとりで頑張り過ぎない。自分も楽しむスタイルが長続きの秘訣かも。**

**ボランティアは楽しい! 考えが変わる! もらうものいっぱい!**

**排除しない地域づくり**

**他人事を自分事化していく、そこにボランティアの真の姿を見つけました!**

**人の為は自分の為**

**一人ぼっちにしない、一人ぼっちにならない大切なことですね。年齢や性別、障害の有無に関係なく、集える場所がこれからは必要だと感じました。**

**いつからでも誰でも出来る活動ですね。人が集まる魅力を作り出していくこと。方法がわかりました。**

**つながりづくり**

**福祉を学んでいる訳ではないけれど、自分が普段学んでいるものと福祉の視点を足し合わせたいという学生さんとの出会いが印象的でした。**

**こんな日に顔を覚えて発表している高校生に出会えたことが嬉しかった! 地元の高校生にも伝えたい。**

**長野からの話を聞く事ができとても安心し、ボランティアフォーラムに来てよかったと初めて思いました。これからがんばります。**

**大阪ボランティア協会 永井美佳事務局長**

**「広げれボランティアの輪」連絡会議 原田正樹副会長**



平成30年6月、「ボランティア活動を文化として根づかせる」ための提言を発表しています。

行政やボランティア・市民活動の推進に携わる者は、一過性のイベントではなく地域で地道に取り組みられてきた「草の根」と「ボランティアズム」の精神を理解・尊重すること。それをふまえて「ひらく」「拠点」「つなぐ」の視点を大切にすべきことを提言しています。

全国フォーラムのシンポジウムやクロージングでは、この視点を基本としながら、参加者と学びを共有しました。

「提言 ボランティア活動を文化として根づかせる ～持続可能な社会を実現するために～(2018年6月、「広げれボランティアの輪」連絡会議)



## 1日目 シンポジウム

# 支え合いの文化を全国に広げるボランティア活動を目指して



シンポジウムでは地元の軽井沢町から鈴木健夫さん、上田市から宮下俊哉さん、岩手県釜石市から鹿野順一さんが登壇し、各々の経験からボランティアを文化として全国に広げるためのヒントを学びました。

コメンテーターの山崎美貴子さん(東京ボランティア・市民活動センター所長)は「3人の活動の共通点は“つながりづくり”“誰も排除しない”“無理をしない”。3人とも非常に“しなやか”であり、“したたか”。そして、ボランティア活動が生活の中の一つになるためには、継続ということが、人の心を動かす大きな力になるということを学んだ」とコメントしました。

## 2日目 分科会

### 分科会1 居場所・サロン

### 一人ひとりが輝く『みんなが 主役』の居場所づくり

地域への愛着や地域への想いが原動力となって生まれている「居場所」や「サロン」。多様な形があって、肩ひじ張らずに少しの工夫でいいんだと確認。



参加者とも繋がることができ、新しいハーモニーも生まれました。

### 分科会2 中山間地域

### 佐久地域の中山間地から発信! 人を動かし、地域を動かす“5つの気”

地域が好き、やる気やその気、本気、一歩踏み出す勇気、根気、色んな“気”があり、活気や熱気が生まれ、地域に変化が起きることを共有。



全国から熱い“気”を持った方が集まりました!

### 分科会3 多文化共生

### 『やさしい日本語』から始まる 支え合いの地域づくり

同じ言い方でも伝わり方は様々。外国語の方だけでなく、障がいのある方や高齢者・子どもと関わる時、相手の文化・生活環境等を理解することが大切。



「やさしい日本語」で支え合うやさしい地域づくり。

### 分科会4 若者の社会参加

### 社会貢献活動やファンドレイジング に参加する若者は少ない!?

若者が一歩踏み出すのは社会貢献活動やファンドレイジングという名前より、「楽しそう」「この面白い人と何かしたい」という気持ち。



楽しい、面白い、やりたいを形に。年齢・職種、幅広いヒトが集まりました。

### 分科会5 持続可能性とボランティア

### ボランティア活動を 文化として根づかせる

ボランティアは楽しいけれど苦しい。嬉しいけれど悲しい。怒りもあれば喜びもある。持続可能な社会を目指すためのボランティアの力を確認。



「持続可能」どう伝えたと伝わる?

### 分科会6 子育て文化と「頼り合い」

### ひとりでがんばらない。受援力を 高め、頼り合いやすい社会に!

安心・安全を追求した頼り合いのシステム「子育てシェア」の仕組みから、安心して暮らせる地域づくりについて考えた。

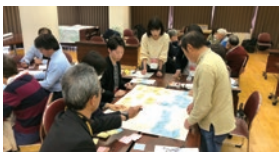


身近なつながりから多世代交流、いざというときの頼り合いへ。

### 分科会7 災害支援

### 大学と学生が持つ力とは

災害に備え、災害ボランティアセンターと大学、学生が平時からどう連携をすべきか。実践報告をヒントに話し合い、隠されていた学生のすごい力を発見。



3つのグループに分かれ、大学や学生の力の活用方法を話し合いました。

### 分科会8 生活支援

### 活動リーダーと生活支援 コーディネーターの関係づくり

ポイントは「共感」。繰り返し思いを伝えて、共に学んで、周りに広げること、理解とワクワクが共有されることを学んだ。



グループごとに活動者の掘り起こしを考えました。

### 分科会9 情報交流の場づくり

### 情報交換と共有の場、 顔の見える関係づくり

誰でも自由に参加できる、情報交流の場。様々な情報を持ち寄り、交換している。過去には交流を踏まえてマッチングが成功した事例も。「顔の見える場」の実践。必ず、輪になるスタイルで行っています。



過去には交流を踏まえてマッチングが成功した事例も。「顔の見える場」の実践。必ず、輪になるスタイルで行っています。

### 分科会10 まちづくり

### 活かされるのを待っている人が 集まれば、まちおこしの力になる

小諸のまちを歩き、「きれい」「おいしい」「楽しい」場所をつくることで、「活かされるのを待っている人」が集まり、思わず出掛けたいまちとなることを実感。



「停車場ガーデン」はママも子どもも楽しめるおしゃれな空間です。

### 分科会11 健康長寿

### 農村医療から学ぶ、専門職とともに に取り組む地域づくり

医師が農村に出向きお芝居で健康づくりを伝える。たくさんの人と出会い、対話を通して双方の関係性を築くフラットな関係づくりがポイント。



佐久総合病院を見学。医療と文化の結びつき地域に広がる健康づくり。

### 分科会12 学生・若者出番

### 若い力の可能性は無限大∞

約20年続くサロンの秘訣は「地域課題を我が事と捉えること」。参加者も世話人も全員が楽しみながら活動を進める姿勢を真似していきたい。



新子田で手打ちの新そばをいただきました!



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成30年度

# ボランティア活動保険

全国200万人  
加入!!

## 保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

## 年間保険料(1名あたり)

タイプ		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ			350円	510円
天災タイプ※ (基本タイプ+地震・噴火・津波)			500円	710円

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

## 保険金をお支払いする主な例



## ボランティア行幸用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

## 送迎サービス補償

(傷害保険)

## 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJNK17-16970 2018.1.9作成)

平成30年度

社会福祉施設  
総合損害補償

# しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

## 事故・紛争円満解決のために!

### プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

#### 1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	新設 徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用			死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間1年

#### ▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補基本	1~50名	35,000~61,460円
補基本	51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと		1,500円
付見舞費用	基本補償(A型) 保険料	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

### プラン2 施設利用者の補償

### プラン3 施設職員等の補償

### プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆ 30年度新設 クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4)

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

(SJNK17-17293 2018.1.12作成)





# 『住宅確保要配慮者需要調査 —生活困窮者に対する住居確保支援の実態から—』を 実施しました

## 結果速報

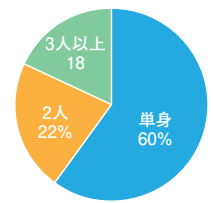
昨年10月に住宅セーフティネット法の改正が施行され、高齢者、低額所得者、子育て世帯等の住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅の登録制度などを盛り込んだ「新たな住宅セーフティネット制度」が本格的に始まっています。

県においても長野県居住支援協議会を設置し、民間賃貸住宅への円滑な入居の促進に関する必要な措置について協議しているほか、賃貸住宅の供給の目標、公的賃貸住宅の供給の促進に関する事項、民間賃貸住宅への円滑な入居の促進に関する事項を盛り込んだ賃貸住宅の供給促進計画を立案することとしています。

今回、その基礎資料とするため、住宅確保要配慮者の需要を把握することを目的として、県からの委託を受け、県内の生活就労支援センター「まいさぼ」における昨年度の新規相談3,116件について調査を実施しました。

まず、3,116件のうち住宅確保に関する相談や支援を行った件数は304件を数え、生活や就労支援の過程において住宅確保に関わる内容が相応にあることがわかりました。世帯人数別に見ると、304件のうち単身が183件で6割を占めましたが、3人以上世帯も55件と2割近くあり、住宅確保の需要は単身だけではなく複数世帯にもあり、世帯人数が多いほど住宅確保がその生活に大きく影響することが推察されます。

世帯人数別	304
単身	183
2人	66
3人以上	55



具体的な支援内容では「家賃滞納等により賃貸住宅からの退去を求められた者への支援」が最も多く80件（26%）、次いで「ホームレス状態の者への住宅確保に関する支援」が59件（19%）でした。ここでは家賃滞納による住居喪失のおそれのある者が多くいること、また既に住居を喪失している状態にある者も少なくないことがわかります。

住宅確保に関する支援内容	304
A 家賃滞納等により賃貸住宅からの退去を求められた者への支援	80
B 賃貸住宅の入居更新ができない者への支援	9
C 差押えなどの強制執行による自宅喪失者への支援	15
D 就労先からの解雇や離職等による住居喪失者への支援	25
E 家賃がより低廉な賃貸住宅への転居に関する支援	15
F 病院や施設の退院・退所後の住宅確保に関する支援	6
G ホームレス状態の者への住居確保に関する支援	59
H 刑務所出所、更生保護施設等退所後の住居確保に関する支援	15
I その他	80

次に、住宅確保支援に関する支援を行ううえでの課題（複数回答）が482件挙がり、そのなかで「入居等にかかる費用が支払えない」ことが179件（37%）と最も多く、続いて「連帯保証人の確保ができないため賃貸契約ができない」ことが92件（19%）でした。本人の経済的理由が最も大きな課題ですが、単身化が進む社会において保証人の壁は大きく、身内や親族がいない、あるいは疎遠だと住宅確保がさらに難しくなる状況が推察されます。

住宅の問題はそのまま生活の問題となります。誰もが「住まう」権利を有しています。しかし、経済的な理由で住まいの確保が困難になるだけではなく、保証人がいないことがさらに「住まう」ことを難しくすることが懸念されます。このような課題に対応するため、新たな仕組みによる住宅セーフティネット構築の必要性が見えてきます。

住宅確保支援に関し課題となった内容 (複数回答)	482
a 連帯保証人の確保ができないため賃貸契約ができない	92
b 保証会社の保証が受けられない	30
c 入居等にかかる費用が支払えない	179
d 高齢を理由に入居を拒否された	2
e 障がいがあることを理由に入居を拒否された	4
f 外国人であることを理由に入居を拒否された	4
g 地理的条件(通勤・通学など)に合う賃貸物件がない	29
h 生活状況(閑取り等)に合う賃貸物件がない	24
i 近隣に賃貸物件自体がない	9
j 入居にあたって近隣住民からの拒否感がある	2
k その他	107





# やってみようからつながる、 ふるさとのちから ～公民館と社協と地域～



連絡先 池田町公民館 池田町大字池田3190-1  
TEL.0261-62-2058 FAX.0261-62-6270  
池田町社会福祉協議会 池田町大字池田2005-1  
TEL.0261-62-9544 FAX.0261-62-2680



北アルプスが映える空気の澄んだ秋晴れの中、子どもたちの元気な声に誘われて、てるてる坊主のふるさと池田町におじゃましました。この日は、ふるさとチャレンジ塾の開催日。町内に住む片瀬さんご夫婦の自宅で開催された「ハード食感 灰焼きおやきにチャレンジ!」に参加してきました。参加したのは池田町に暮らす子どもたち20人とご近所さんたち。子どもたちは初めて見るもの、初めて体験すること全てに興味深々。きめの細かい灰の感触や、落花生が土に埋まっていたら抜いたら湿っていること、おやきの生地とすいとんの生地の感触の違い。子どもたちはそれぞれがやりたいことをやりたいように、目を輝かせて、この時間を楽しんでいます。トイレやキッチンが片瀬さんの家の中、とびらは全開です。子どもたちは「おじゃまします!」と大きな声で出たり入ったり。「子どもたちのやってみよう気持ちを優先したいから、あまり声はかけないの」と片瀬さんは言います。鋳物ガスコンロにライターで火をつけるとき、子どもたちからの「お〜!」という声に、得意げな大人たち。参加した子どもたちからは、「こうやってやればいいかな」「初めて知った」「やらせて、触らせて」など、自分たちが実際にやってみて楽しく学んでいました。

池田町では、池田町公民館と池田町社会福祉協議会が共催して「ふるさとチャレンジ塾」という全9回の、池田町の児童・生徒を対象にした講座を開催しています。平成8年から始まった企画は、当時、学校が週休2日になり始めた頃、地域で何かできないかと、公民館と社協が手を取り合い始めました。公民館は「ふるさとの再発見」を、社協は「福祉教育やボランティア等の体験の機会」を目的にしています。池田町社会福祉協議会の岡村さんは、「公民館と一緒に開催することで、参加者や企画の幅が広がる」と、池田町公民館の塩原さんは「お互いの得意なところを活かして講座を企画したり、参加者を募集したり、とても有意義です」と言います。まさに、お互いの良いとこどりで成り立っている講座でした。

日頃から自宅を開放して近所の皆さんと集う機会をつくっていた片瀬さん。今回の企画も片瀬さんの噂を聞きつけ、協力をお願いしたところ「いいですよ」の一言からはじまったもの。こうした地域のいろんな「ヒト」を知り、つながりながら企画することで、信頼関係も築けています。



片瀬さんのやり方を良く見て真似ます。自分だけのオリジナルおやきを作る子もいました。



きめの細かい灰にびっくり。灰の暖かさにみんな集まります。



# よっ! 新風人

毎号福祉の現場に新しい風を吹き込むスタッフをご紹介します。

社会福祉法人 親愛の里  
松川町地域活動支援センター  
あすなろ  
指導員 唐澤めぐみさん



webでも  
ご覧になれます



一人ひとりの力やできることを発見し、共に喜び合える魅力。



時にはゆっくり落ち着ける...みんなで作り上げよう!! (スローガンより)



人も自分も大切に!! 楽しい時には思いきり笑おう!! (スローガンより)



常にほがらかに、利用者さんが過ごしやすい場を心掛けている。

**障** がいのある方やご家族の相談、利用者さんのニーズに合わせた活動を行い、地域生活を支援している、松川町地域活動支援センター。ムードメーカーとして明るい居場所づくりに活躍しつつ、探究心を持ち学び続けている唐澤めぐみさんにお聞きしました。

**Q** 今のお仕事の内容を教えてください。

**A** 心の中に様々な生きづらさを抱えている方にとって、家から一歩踏み出した「居場所」となるよう、お話をしたり、様々な活動をしたりしながら、さらに他の場所とつながっていくよう支援しています。利用者さん同士の関わりも大きいと思います。

**Q** 印象的だったことは何ですか。

**A** 利用者さんと「あすなろ」のスローガンを考えたことです。利用者さん自身にとって、ここがどういうところか、どんな場所にしていったかを話し合いました。自分たちの場所だという気持ちが高まり、その後の様々な活動にもつながっていました。

**Q** 大切にしていることは何ですか。

**A** 日常の会話から、その方がどんな力を持っているか、どんなことを大切にしているか、な

どを意識して、職員で共有しています。また、こちらの雰囲気や敏感に感じ取る方も多いので、いつも明るく肯定的に、安心できる場所になるよう心掛けています。

**Q** 福祉の道を目指す人へ一言お願いします。

**A** 実際に福祉の仕事をしていると、その方の人生のすぐ近くにいるところに居させてもらっているのだと感じます。制度や法律など、専門的な知識に基づいた支援と、その方が持つ力を最大限活かしながら幸せをかなえられるよう寄り添う心が大切だと思います。

入職1年目ながら「意図をきちんと理解し1お願いするとちやつてくれる」と上司の信頼も厚い唐澤さん。「支援しながら学ばせてもらったり、自分にとってプラスになることもたくさんあります。」との言葉どおり、謙虚に、ひたむきに利用者さんと向き合う姿が印象的でした。

続きは県社協HPでご覧いただけます。

## 今月の逸品

お客様の目をひくことまちがちなし!  
ツールペイントA看板

練習に練習を重ねたご利用者たちが、心をこめて手描きで製作します。

1か月以上の時間をかけて、風雨に耐えるよう、ニスも4度塗りです。

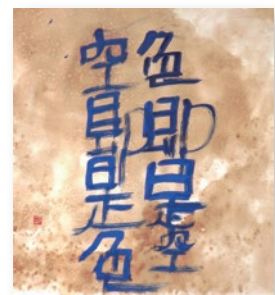
お店の宣伝にぜひどうぞ。裏面はブラックボードがついており、ホワイトボード用の蛍光ペンなどで「本日のおすすめ」がご記入いただけます。



社会福祉法人有倫会 ソレイユ  
岡谷市長地小萩3-1-20  
TEL.0266-75-5235 FAX.0266-75-5243

ソレイユ立て看板  
木製 ブラック 450(幅)×1105(全長)  
ご予算 絵の大きさ、文字の量にもよりますが、  
2万5000円～3万円です。

## ざわめくアート



『色即是空 空即是色』 和紙、絵の具

作者: 宮本 尚幸(みやもと なおゆき) 33歳

般若心経の中の有名な一節。和紙にインスタントコーピーで色を付け、その上にコバルトブルーの絵の具で書いたもの。作者はボードに書かれた文字を見ながら独特の書き方でユニークな文字を書き紡ぐ。

“いいなあ!”と唸るばかりでコメントしようがない。作者は『信州ザワメキアート展2017』で入選。般若心経276文字を書き、3×8mほどの壁面に展示された。圧巻であった。(取材 ながのアートミーティング)

●ご感想、お問合せ、  
掲載希望等は下記へお寄せください。

webでもご覧になれます

長野県 社会福祉協議会  
総務企画部 総務グループ  
TEL 026-228-4244  
FAX 026-228-0130  
E-mail soumu@nsyakyu.or.jp

長野県 社会福祉協議会	福祉・ 介護べんり帖	長野県福祉研修実施団体 きやりあねっと	信州福祉・ 介護のひろば